

「人間工学からの発想」 クオリティ・ライフの探求

佐藤 昭則^{1), 2)}

人間工学からの発想

小原 二郎 著

講談社

2023 年



少々古い本になりますが、日本の人間工学研究の第一人者、小原二郎氏の「人間工学からの発想」です。

人間工学の本というと、データやら表やらの解説が多く、開くだけでうんざりして閉じてしまう小難しいものであるという印象を持つ方も多いのではないのでしょうか。

この本は、副題にもある様に「クオリティ・ライフの探求」をガイドするための「物」の設計要件とはどういうものかについても解説した本です。住まい、家具、乗物座席、寝具、材料と、生活の中にある快・不快に関わる物についての適正寸法についての考え方や大まかな寸法を紹介しています。

第1章では、人と物のかかわり、さわる、にぎる、ひねる、押す・引く、開ける・閉める、踏む、かがむ・またぐ、といった、日頃なにげなく行なっている動作を人間の可動域や人体の寸法などを交えてわかりやすくそのポイントを解説することから始まります。一般的な動きを想定した、標準体型を元にしたものではありませんが、自助具などの寸法を決める際の目

安としても使えると思います。

小原氏は、日本人の体型に合った、とくに椅子を中心とした、作業姿勢に関する細かな寸法の基本形を取りまとめたことでも知られています。家具のデザインを学んだことがある人は、制作に関わる設計の際に必ず一度は基準寸法の図面を目にしているくらいの、椅子設計の神様な存在でもあります。

しかし、この本に紹介されている参考寸法値は「絶対」の寸法ではありません。二年前、「椅子を設計したい」という学生に、小原氏の基本寸法を紹介してその数値を基に椅子の設計を行いました。簡単な試作品を制作してその評価を行なったのですが、学生本人はその寸法に納得がいかなかった様子で、学生の意見を聞きながら実験を繰り返した結果、基本寸法を修正して独自のサイズで計画したデザインで最終制作を行うこととなりました。最終発表のプレゼンテーションで他の教員は「巨匠小原さんの寸法にダメ出しか…」と笑っていましたが、基本寸法があるからこそ細かな気づきにも短時間で到達できたのではないかと思います。

日ごろ道具の設計を行なっている方にはもういちど標準寸法を確認して、それと実際の物との違いを比べてみることをお勧めします。きっと何か気づくことができるヒントが詰まった本です。確認したい時に不安要素を解消すべく、サッと要件を確認できる便利な一冊でもあります。人間工学に触れたことがない方は、入門書としてもお勧めできる気軽に読める本です。

1) リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会

2) 九州産業大学 芸術学部 生活環境デザイン学科

〒813-8503 福岡市東区松香台 2-3-1